

令和5年度 第1回奈良県食育推進会議 議事概要

日 時:令和5年8月10日(木) 10:00~11:40

場 所:リガーレ春日野 1階吉野の間

出席者:足利委員、板澤委員、尾川委員、奥田委員、富岡委員、中村委員、中和田委員、野阪委員、
松井委員、松田委員、森本委員(11名)

議 題

- (1) 第4期奈良県食育推進計画(素案)について
 - 1) 第3期計画の評価
 - 2) 第4期計画の概要及び取組
 - 3) 評価指標(案)
- (2) その他

概 要

- 医療政策局 筒井局長より挨拶
- 尾川委員を議長として指名
- 議事要旨(以下のとおり)

【尾川議長】

議題の1つ目、「第4期奈良県食育推進計画(素案)について」、その中で、「第3期計画の評価」、「第4期計画の概要及び取組(案)」、「評価指標(案)」と3つに分かれています。来期から第4期が始まりますので、第1期から第3期の流れを踏まえながら、次の第4期に奈良県として、どのような方法で軸足を置いていくかということ、検討いただければと思います。

それでは「第3期計画の評価」について、事務局から御説明をお願いします。

【事務局】

まず、前回の会議の振り返りから御説明いたします。

令和6年度を始期とします、第4期奈良県食育推進計画の策定に向けて、現行の第3期計画の暫定評価と国の食育推進基本計画や健康づくりプランを参考に、また社会情勢の変化についても加味し、第4期計画において目指す姿、基本方針、施策体系などについてお示しをさせていただきました。

御審議の結果、基本理念、基本方針、目指す姿について、現行の第3期計画を継承しつつ、課題となった働き盛り世代の食生活の改善など、健康に関心の薄い方に対しては、食育や地域と連携協働した取り組みを推進すること。若い世代に対しては、子どもの頃からの食育の推進や、乳幼児や児童生徒の保護者支援など、家庭への働きかけを推進すること。また、今後高齢者が増え、介護予防の取り組みがますます必要とされることから、高齢者が集る場でのフレイル予防についての啓発や、食生活としては、特にタンパク質の不足にならないことについての啓発が必要であることなど、様々な御意見をいただきました。

また、市町村食育推進計画の取り組みへの支援を適切に行う必要があることについても共有をさせていただきました。このように、いただきました御意見を基に、前回お示しさせていただきました、第4期奈良県食育推進計画の概要や取り組み案について、一部修正させていただいておりますので、改めて御審議をお願いします。

(「資料Ⅰ 第3期奈良県食育推進計画の評価」について説明)

【尾川議長】

資料Ⅰについて、御意見をいただきたいと思います。

【中和田委員】

2ページの基本方針Ⅰですが、肥満の方、特に男性を含めて増えてきていると思います。5歳児の肥満傾向の割合も悪くなっている中で、何が原因というようなもの、こういう兆候があるなど、分かれば教えていただければと思います。

【事務局】

特にその原因をつかめてはいないのですが、全体に取り組みが新型コロナウイルス感染症の影響で進めることが困難だったり、家庭の環境や生活背景も変わってきたところを要因として考えています。

【松井委員】

関連してお聞きしたいのですが、さきほどの肥満の関係で、コロナ禍の影響というのは、把握されていないのでしょうか。

【事務局】

コロナ禍との関係について、恐らくほかの指標についても関連を今後検証していくべきものですが、現時点で、この子どもの肥満傾向との関連というのは、まだ分からないところが現状です。

働き盛り世代の肥満では、食の関連だけではなく、例えばスポーツということでは、「なら健康長寿基礎調査」の結果から、働き盛り世代の運動習慣が他の世代に比べて少ないという現状もあり、様々な要因が関係してくると考えており、働き盛り世代への施策は重要になってくると考えています。

【尾川議長】

コロナ禍というのは、随分影響があると思います。最近の報道からも、平均寿命が縮んだということです。ただ1つ言えるのは、5歳児の肥満だとか、男性のアルコールの度合だとか、毎日の食生活が、昔より随分悪くなっているように個人的に思っています。今、テレビコマーシャルでも、食に関してすごく便利でおいしくて安くて簡単でということが多いのですが、これにいかにか立ち向かうかということが大事なのではという気がします。

【富岡委員】

コロナ禍の影響のデータとしては、海外などでは、喫煙者の割合については、コロナで増加したという報

告がありました。日本に関しては、国民生活基礎調査の喫煙率は増加していなかった。ただ、身体活動に関しては、テレワークが進んだことや外出自粛などで、成人に関しては、コロナ期間は運動量が減っているというデータはあり、それが原因で働き盛り世代であれば肥満、高齢者であればフレイルなどの介護リスクが高まっていると言われています。子どもの身体活動についてのデータはありませんが、小さな子どもほど、これまでのように外で遊んだり、外出できないということで家庭の中に閉じこもらざるをえなかった。また、学校閉鎖等で給食がなくなり、家庭で御飯を食べる機会が増えてくると、きちんと3食作っている家庭と、そうではない家庭、子どもが好きに適当に食べなさいみたいな状況では、どうしても甘いものやスナックなどで簡単に済ませるといったケースも出てきたのではないかと思います。

【尾川議長】

コロナ禍の3年間は、今まで経験したことのないものですから、引き続きの問題になるかと思えます。

市町村食育推進計画については、県の事務局、保健所で、随分御努力をいただいて、39市町村すべて策定することができました。

事務局にお聞きますが、こうしたデータを、これから先どうしていくかというときに、各市町村にバックさせて、他市町村との比較の中で、各市町村の取り組みに進んでいかなければ、絵に描いた餅になってしまうと非常に無駄なことだと常々思っているのですが、それについてはどうですか。

【事務局】

市町村の取り組み状況については、参考資料4-1と4-2に、野菜摂取と減塩の取り組みをまとめています。併せて、野菜摂取と減塩について、各市町村でどのような目標を持って取り組んでいるかも記載しております。このような市町村の取り組みが適切に実施できているかについて、保健所を通じて引き続き支援をしたいと考えております。また、参考資料3-4は、令和3年度県民食生活実態調査の結果による市町村ごとの食塩摂取量、野菜摂取量について、県全体と比べて少ないのか多いのかを比較した散布図ですが、これが今後どう変化していくのかを評価指標の1つとしています。

【尾川議長】

県民だより等をもっと利用して、各市町村長においても共有していけたら良いと思えます。

それでは続きまして、第4期の計画の概要について、説明をお願いします。

【事務局】

(「資料2 第4期奈良県食育推進計画(概要)」、「資料3 第4期奈良県食育推進計画の取組(案)」について説明)

【尾川議長】

これからの第4期におけて、委員の皆様において、こういうことを希望したい、こういうことをやっていきたいというような御意見ををお願いします。

【足利委員】

「朝食を毎日食べていないと回答する児童・生徒の割合」で、非常に悪かったという評価をみて、子どもの食事に対する意識だとか、御家庭の方々の意識というのが、すごく朝が忙しいというのを改めて感じたところです。

私は今回、こども食堂のネットワークという形で参加しております。県内で100を超える団体の方々がこども食堂で実践をいただいています。その中でも極一部にはなりますが、朝御飯をみんなで食べようという活動をされている団体もあります。奈良市内の団体では、学校があるときに、お子さんと一緒に朝御飯を食べて学校に送り届けるという活動をされている方々もおられます。このように朝御飯は、1日のスタートだということ意識していただいています。

食育は知育・徳育・体育のベースになりますが、何をもち、子どもが食に関心を持つのかということでは、おいしい御飯を食べるといってもそうですが、コロナ禍ということで、学校給食の際も黙食で、楽しく食べちゃ駄目みたいな、何かそういう風土があったと感じています。その中は、食を大事にするという理解が深まらないのかなと思いますし、食事は楽しくできることがすごく大事だと改めて感じております。

こども食堂の活動においては、会食の形で、マスクを取って食事をみんなでしながら、「この野菜ってこういうのができてよ」だとか、「この野菜って体にこういうことが良いんだよ」というようなことを含めて、教えていただきながら、加えて楽しくみんなで食を囲むということが大事という活動をさせていただいております。その点からも、朝御飯も含めて、食事というのは、どの様に楽しくするのかということ意識していけたら良いと思わせていただきました。

次の第4期計画の中では、基本方針Ⅱに挙げていただいている、地域の子育て支援活動の場となるこども食堂の普及ということも含めて、食事を楽しくということ意識して取り組みを進めていけたら良いと感じました。

【板澤委員】

私たち、ならコープは、県内に10店舗と、あと宅配で組合員としては奈良県内50%を超えている事業になっており、組合員だけではなく、地域がより良くなるということを目指しています。食べることの環境や、食べることがより良い生き方につながるということをはっきり目指して、組合員の皆様と学び合っていかなければいけないと思っております。

39の市町村すべてに食育の会議、取り組みができたということですが、私たちとして考える中では、主体的にこの食育について考える仲間を増やすということが、ならコープの役目だと思っております。この39市町村に食育推進計画ができたということは、この元になる会議体に市民の方も参加されているのか、どのような運営をされているのかをお聞きたいと思いました。

【奥田委員】

食育は全てのベースになるというお話に感銘を受けております。

その中で、第3期計画で悪化している項目、5歳児の肥満、そして働く世代の健康課題が多いということが気になります。働き盛りの世代というと、我々子育て世代が一番ど真ん中に当たると考えたときに、このままだと非常に怖いというのが正直な感想です。

我々PTA協議会では280単位PTAがありますが、その中の全会員のところに、この結果を確実に同じ気持ちで届けるのはどのようにすべきかと思いながら考えていたのですが、PTA協議会は食育に関するところ

ろでは、この食育推進会議と、奈良県学校給食委員の拝命を受けています。所属している市町村では学校給食運営委員会がありますが、給食がメインになっています。今日ここで関わる内容を、こういった形で家庭に啓発していくか、家庭で朝御飯を食べない子どものデータもありましたが、家でどれだけの御飯に接する機会があるのか。聞くところによると、コンビニ弁当といった簡単なもので御飯を済ませる家も多く、そこを変えていかないと栄養や減塩、野菜の摂取量は変わっていかないとしますので、どうすれば家で作る時間を増やしていくことができるのか、それが本当のポイントになってくると思うので、その課題をどう啓発すればいいのか、というのが正直な感想です。

【中村委員】

感想と要望になりますが、資料1から肥満者、糖尿病有病者、血圧要治療者の割合が男性で増加し、女性はあまり変わらないという結果が出て、「ああ、そうなのか」と思いました。男性の場合には、運動やジムに行く方が女性よりずっと多いのではないかと思います。コロナ禍の影響があるのかもしれないと思います。もう一つ感想的なものですが、資料3の「高齢者の健康づくり」について、特定健診という制度があり、実は高齢者にも後期高齢健診という、ほとんど同じ制度があります。個人的な意見ですが、高齢者の後期高齢健診は、あまり意味がないと思っています。それよりも大事なものはフレイル予防で、高齢者は血液検査をすると、タンパク質アルブミンが非常に下がっている方が多く見られます。タンパク質を取っているかと患者に聞きましても、なかなかピンとこない方が多いです。そこでタンパク質は何かとか、どういう食事を取ったら良いかというのを、啓蒙するのは非常に大切なことだと思いますので、ここに書かれている食事の取り方に関する啓発媒体の作成だとか、通いの場等において食事内容や食べ方に関する普及啓発とか書いてありますが、この辺は健診よりも非常に大切だと感じております。

【中和田委員】

学校給食に関して、先ほどお話が出たかと思えます。私たちも引き続き学校給食を安全安心な形で提供させていただくということで、子どもたちの健康を支えていきたいと考えています。

朝食を食べる児童・生徒の割合が載っていますが、給食会と、学校給食栄養研究会、学校給食指導研究会との共催で、4年に1度、奈良県の児童・生徒の食生活の実態調査を実施していて、今年度実施予定となっています。

この調査は、対象を小学校5年生と中学校2年生としていますが、朝食を食べる、食べないということだけではなく、どのようなものを食べているのかだとか、また、1人で食べているのかとかいうような、そういった少し踏み込んだアンケート調査を今年度実施させていただきます。

その結果についての考察やデータを市町村、学校にも返させていただき、指導や啓発の資料等にも活用していただければと思っています。この取り組みからも、朝食を食べる児童・生徒を増やせればと思います。

【野阪委員】

資料1で気になった点として、「妊婦に対する歯科口腔保健指導等の実施市町村数」がD評価で、1つ減っていること。ただ、食育推進計画は全市町村で策定されているにもかかわらず、妊婦に対する歯科口腔部分の指導が実施市町村が1つ減っているということについて、どういう事情なのかが気になっています。

次期の計画について、「高齢者の健康づくり」に「オーラルフレイルの予防の推進」が新しく入ってきてい

る。フレイルになる前にオーラルフレイルが先に現れると言われており、フレイル予防にも直接つながるので、我々の立場としてもしっかりと推進していかなければいけないと考えています。

子育て、妊婦になりますが、子育ての中の「妊産婦・乳幼児の栄養指導を実施」という項目がありますが、口腔ケアという部分がどうなのか。31市町村しか口腔保健指導がされていないということと併せて、その辺りの推進もお願いしたいと思います。

3歳児のむし歯は非常に少なくなってきた。12歳児での歯肉の炎症も減少傾向になって非常に良い傾向はデータとして出ていますが、妊婦に対する歯科検診の受診率が非常に低いという御指摘も受けており、妊婦だけに限定されないのかもしれませんが、妊娠期から栄養管理をしっかりとすることで、例えば低栄養児であるとか、低体重児出産になるといったものも防げるというデータもありますし、歯周病との関係も取り沙汰されております。そういった意味でも、しっかりと子どもに対する啓発についても、その時期からしっかりと指導をしていくことが必要だと思いました。

歯科医師会では、子どものむし歯の数や12歳、中学校1年生のDMF歯数といった全校のデータは県に提供していますが、妊婦については、歯科医師会としても、まだ十分把握しておらず、データが取れてない部分があり、その辺りは私は、母子保健も担当していますので、今後しっかりと進めていきたいと考えています。

【事務局】

妊婦健診については、母子保健が市町村の所管となりますので、先ほどの健診や指導も市町村の裁量になるというのがありますが、しっかりと啓発する必要があると考えています。

【松井委員】

資料3の「生活習慣病の発症と重症化予防」で、新たな取り組みとして、「職場における食育の推進」があります。私どもは医療保険者として、まずは健診を受けていただき、その結果、医療機関に受診したり、保健指導を受けていただき、その中に食生活の改善等を盛り込んで、健康で長く生き続けてもらうというのを目的にしています。

今の時代は、高齢者が多くなってきたということで、保険料、医療保険、医療費はかなり増えていますので、結局は長く元気で生き続けてもらうというのはやはり一番大事ななと思っていますので、その前段で、健診を受けていただき、まず悪いところを直していただくということもそうですし、グレーゾーンから白にしてもらう、そういうことを目指して頑張っているところです。

また、「職場まるごと健康宣言」というものを事業者に実施していただくよう啓発しています。「従業員が元気ということは企業の業績も上がります、企業イメージもアップします。」ということで、取り組みなども実施しています。引き続き、私どもは医療保険者として、頑張っていきたいと思っています。

あと、第4期計画にもありますが、デジタル化に対応した何かをできたら良いと思います。

【松田委員】

栄養士会の取り組みについて、今年度重点的に実施することですが、高齢者のフレイル・低栄養予防について、地域ケア会議等に栄養士が参加し、問題のある方に訪問指導を実施させていただいています。先ほど、中村委員も言われたように、高齢者の方はタンパク質を取りなさいと言われても、どんなふうに取り

たらいいのか分からないということがありますので、資料3にありますように、その周知のため、栄養士会で今年度、分かりやすいチラシを作り、皆様にお配りしたいと考えています。

働き盛り世代の方の肥満ですが、この世代は非常に難しく、個別に指導したところで、無関心の方が多い。食環境から取り組んでいかないと、特に減塩というのは難しいと思っています。健康的な、野菜がたくさん入った減塩のお弁当を作ってもらえるような業者を、県からの委託も受けて増やそうということで、去年から始めている中で、今年度、栄養士会で業者に対する相談窓口を今年度に設置する予定で準備を進めているところです。

また、今回初めて災害のことが入りましたが、今年6月に栄養士会と県で、災害時における栄養・食生活支援活動に関する協定を結ばせていただきました。その中で県と連携しながら、平常時に災害時に向けてどういった備蓄をするなど、どういったことを備えていかなければいけないかということ、県の防災訓練にも参加しますので、今後いろんな場面で啓発をしていきたいと考えています。

【森本委員】

JAとしては、食の安全安心を生産者の立場から、または消費者の立場から支えさせていただいています。特にJAの農産物直売所で安全安心な野菜を提供させていただき、これを奈良と橿原で重点的に取り組みをさせていただいています。

新型コロナウイルス感染症の関係で比較的安価な食物にシフトしているようなところがあるのかということが見受けられるところですが、生産者から直接消費者に届けるということで、JAでは比較的安く野菜を提供するというにも取り組んでいます。

その反面、現在の資材の高騰、原油高騰で肥料の価格が1.5倍、2倍になり、生産者を取り巻く環境が非常に厳しくなっており、再生産価格を見据えた値付けができないということで、農業から離れられるということも現実に出てくるような状況になってきているので、そういったことも踏まえて、県の情勢、またJAの情勢、そういったことも踏まえて生産者、消費者両面をサポートしていきたいと思っていますので、よろしくお願いたします。

【尾川議長】

それでは次の議題「評価指標(案)」につきまして、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

(「資料4 第4期奈良県食育推進計画評価指標(案)」について説明)

【尾川議長】

ただいまの評価指標(案)につきまして、何か御意見がございますか。

【松田委員】

新設の指標になりますが、「果物を1日200g以上食べている人の割合」について、これは国の指標にも入っているということですが、実は200gというのはすごく難しい状況です。令和元年の国民健康栄養調査でも、成人の平均が100g、中央値が50gと、ほとんどが100g以下の状況です。そのため、200gはすごく

ハードルが高い。「200g食べましょう」でなくて、「100g以下の人の数を減らす、減少させる」等になると、国とは比較ができないかもしれませんが、200gはハードルが高いかなと思いました。

また、最近では果物がすごく高価ということもあります。

【事務局】

ご指摘について、再度検討させていただきます。

【富岡委員】

果物摂取量に関しては、本当にこの摂取量を目指すのであれば、経済的な支援を併せて進めていかないと到達不可能な目標かと思います。今御指摘いただいたような、低摂取量の人を減らすという目標が現実的です。非常にたくさん食べておられる方と食べておられない方と、あるいは季節的に食べる時期とほとんど食べない時期もあります。それと、エビデンスとしては、野菜に比べて糖質が多いので、糖尿病に関しては、あまり果物を積極的に食べないほうが良い場合もある。この果物摂取量は、医師会の先生方の御意見もいただきながら検討していただきたいと思います。

全体的なことでは、これまで食事というのは冠婚葬祭とか大切な場面で食事を一緒に共に食べて、ひとときを過ごす機会でした。しかし、この新型コロナウイルス感染症で会食は感染リスクになるということで、食事が今までにないような場面になってしまいました。新型コロナウイルス感染症自体は5類に引き下げられましたが、残念ながら食事の場面というのは、今も新型コロナウイルス感染症の感染リスクの機会になっております。でも共食は大事ですし、黙食のまま、これからもということも、これは特に子どもや人との交流というようなところでは阻害要因が大きくなってしまいますので、できるだけ感染リスクのない、健康的な食育とか、食事場면을提唱していかないといけないと思います。

個人的には、市町村別評価と、協会けんぽのアドバイザーをさせていただいているので、働き世代の食育に関わらせて頂きたいと思います。働き世代は健康に関心な方が多いということから、まずは健診受診というものを通じて、そこで自分の健康に関心を持っていただく中で、食生活にも関心を持っていただけるのではないかと考えています。

また高齢者のフレイル予防というのが私の研究テーマですので、各世代、それぞれのアプローチの仕方というのがあるかと思いますが、そういった各世代のアプローチの取り方を踏まえて、奈良県全体の食育の向上に向けて、微力ながらお手伝いできればと思っています。

【尾川議長】

最後の議題、計画策定のスケジュールについて、事務局から御説明をお願いします。

【事務局】

議長、その前に、先ほどの御質問の中で、市町村の食育推進会議の状況ということで御質問があり、保健所に聞いて把握しましたので、まずそちらをお答えさせていただきます。

全て把握できたわけではないですが、市町村ごとに、食育推進のための会議を設置しているところがあり、保健所から職員が参画して、一緒に議論を進めています。具体的には、宇陀市、田原本町、王寺町、広陵町、大和高田市、生駒市、平群町、安堵町、五條市、大淀町では、保健所の栄養士が参画している実績が

あります。

(「資料5 健康関係三計画改定作業スケジュール(予定)」について説明)

【尾川議長】

それでは、本日予定しておりました議題は、これで全て終了となります。

いろいろ大きな問題ですので、もっとゆっくりした時間でお話合いができればいいかと思っています。

先ほど、第2回は11月頃とお伺いしました。事務局において、次期計画の策定について、来年3月の議会にかけてすすめていただくようお願いいたします。

今後とも、各委員の先生方の御協力をお願いいたします。